



2018年7月20日

### QB 第一号ファンド 「株式会社 chromocenter」 への出資について

西日本シティ銀行（頭取 谷川 浩道）は、地域の事業会社等と共同で出資している「QB 第一号ファンド」（以下「本ファンド」）において、「株式会社 chromocenter（代表取締役 松岡 隆之）」（以下「当社」）へ出資を行いましたので、お知らせします。

当行は、地域金融機関として、本ファンドを通じて大学発ベンチャーの成長及び地域経済の活性化を積極的に支援してまいります。

#### 記

#### 1. 対象企業の概要

会社名	株式会社 chromocenter
本社住所	鳥取県米子市西町 133-2
代表者	代表取締役 松岡 隆之
設立	2005年6月
事業内容	染色体工学技術による創薬及び医薬品製造支援技術の提供 バイオ医薬品生産細胞の改良などタンパク質高発現細胞株の作製
当社URL	<a href="http://chromocenter.com">http://chromocenter.com</a>

当社は、鳥取大学染色体工学研究センターの押村特任教授らのグループが開発した人工染色体ベクター<sup>(※)</sup>を基盤技術として、九州大学大学院工学研究院の上平教授が研究する逐次遺伝子導入技術に関する特許のライセンスを受け、バイオ医薬品生産、染色体解析等の研究開発を行っているベンチャーです。

(※) 人工染色体ベクター：ヒトあるいは、マウス染色体から細胞内での染色体の維持や分裂に不要な遺伝子領域を削除することにより開発され、それぞれ HAC（ヒト染色体由来の人工染色体）ベクター又は MAC（マウス染色体由来の人工染色体）ベクターと称されています。

#### 2. 出資の理由

本件は、当社の下記の点を評価し、出資を行いました。

##### (1) 高い技術力

- 人工染色体ベクター、染色体解析といった他社にはない技術を保有していること
- 九州大学の上平教授の逐次遺伝子導入技術によりスクリーニングのスピードが格段に早くなりブレークスルーが起きたこと

##### (2) 成長性

- バイオ産業市場は拡大しており、それに伴い細胞を作る市場も拡大していること

##### (3) 地域経済の活性化

- 大学等の研究成果を活用した新たな事業の創出及びベンチャー企業の創業支援により、地域経済の活性化が期待されること

以上

参 考

『QB 第一号ファンドについて』

本ファンドは、当行が九州大学の特定関連会社である株式会社産学連携機構九州と共同で設立した QB キャピタル合同会社が運営するもので、九州地域の大学の研究成果を活用した新産業の創出による九州経済活性化を目的に設立されました。

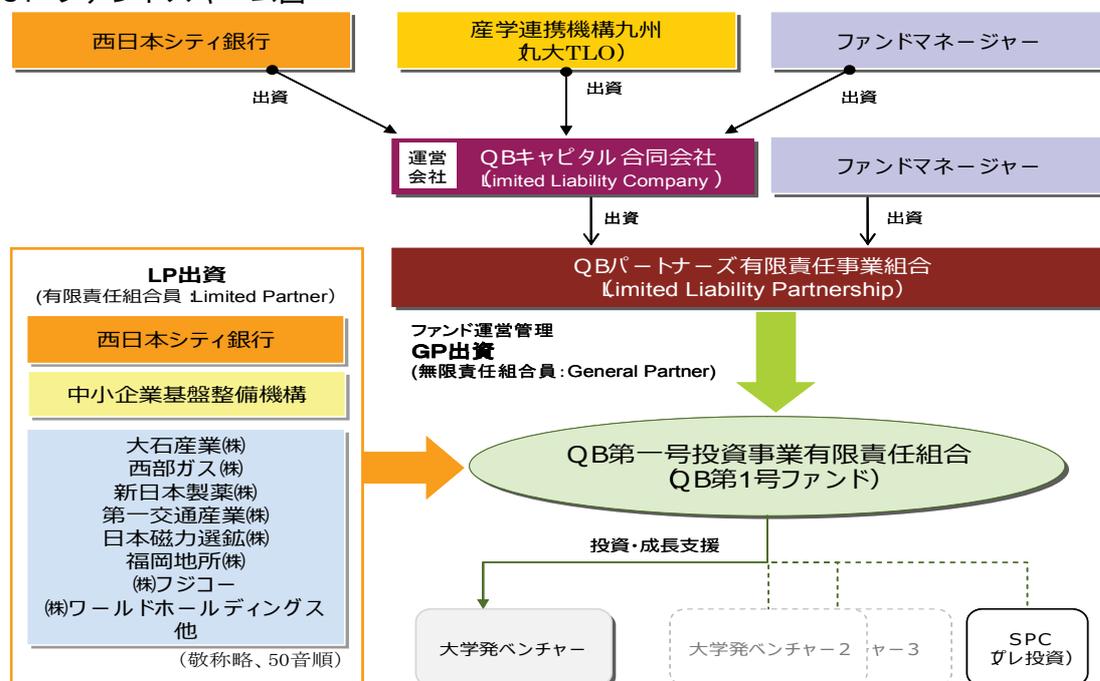
1. ファンドの概要

名 称	QB 第一号投資事業有限責任組合（通称：QB 第一号ファンド）
設 立 日	2015 年 9 月
フ ァ ン ド 総 額	約 31 億円
無 限 責 任 組 合 員 (GP : General Partner)	QB パートナーズ有限責任事業組合
有 限 責 任 組 合 員 (LP : Limited Partner)	株式会社西日本シティ銀行、独立行政法人中小企業基盤整備機構 地域事業会社 他
存 続 期 間	10 年間

2. 運営会社の概要

名 称	QB キャピタル合同会社
設 立 日	2015 年 4 月
所 在 地	福岡市早良区百道浜 2-1-22 SRP センタービル
出 資 者	株式会社西日本シティ銀行、株式会社産学連携機構九州 他
代 表 社 員	坂本 剛、本藤 孝

3. ファンドスキーム図



本件に関するお問い合わせ先  
 法人ソリューション部 渡辺・多良木 TEL092-476-2741